令和８年第６回定例会一般質問通告事項

12月3日	檀上政樹議員（市民連合）	質問方式:一問一答方式
	１　身寄りのない単身高齢者への「終活・権利擁護・身元保証」支援体制の拡充について （1）本市において、身寄りがなく引き取り手のない逝去者の発生状況と、それに伴う行政手続（火葬・埋葬等）の負担や現状の課題について、どのように把握されているか伺う （2）経済的に余裕がない単身高齢者であっても、少額の費用で事前契約を結び、安心して葬儀・納骨の準備ができるよう、本市においても地域の葬祭事業者等と協定を結ぶなどした「行政主導の終活支援スキーム」を構築すべきと考えるが、市の見解を伺う （3）市民が自身の緊急連絡先、医療の事前指示、遺言書や墓地の保管情報などを事前に市に登録し、緊急時や逝去時に医療機関や福祉関係機関が円滑に確認できる仕組みを導入すべきと考えますが、今後の取り組みの意向について伺う ２　次世代への農業技術継承に向けた、スマート技術の活用について （1）新規就農者や後継者不足が叫ばれる中、ベテラン農家から若手への「技術やノウハウの引き継ぎ」の現場において、市としてどのような課題を把握されているのか、認識を伺う （2）農作業の現場では、手がふさがっている状態や、多忙を極める中で、文字を入力して記録を残すことは容易ではない。しかし、音声による記録であれば、作業を中断することなく、その時の判断やコツをリアルタイムに残すことが可能である。 こうした音声認識技術やＡＩを活用し、熟練農家のノウハウを蓄積・活用することの有効性について市の見解を伺う （3）市内の先進農家やベテラン農家の指導風景、日々のつぶやき、地域特有の気候風土に合わせた栽培のコツなどを音声データとして収集・蓄積し、誰もがスマートフォン等で検索・活用できる「農業用ＡＩ音声データベース」を構築することは、新規就農者の定着や技術向上に大いに寄与するものと考える。 本市としてこうした音声データを活用した技術継承プラットフォームの構築・支援に乗り出すべきと考えるが、今後の方向性について伺う	

12 月 3 日	（4） 農家戸数や高齢化等従事者の減少による遊休農地の増加、近年の異常気象など農業を取り巻く環境は厳しい状況にある中、気象、土壌データなど、環境センシングデータを基にしたＡＩ解析を活用し、農作業を最適化することで、持続可能な農業の確保に努めてはいかがか、市長の見解を伺う